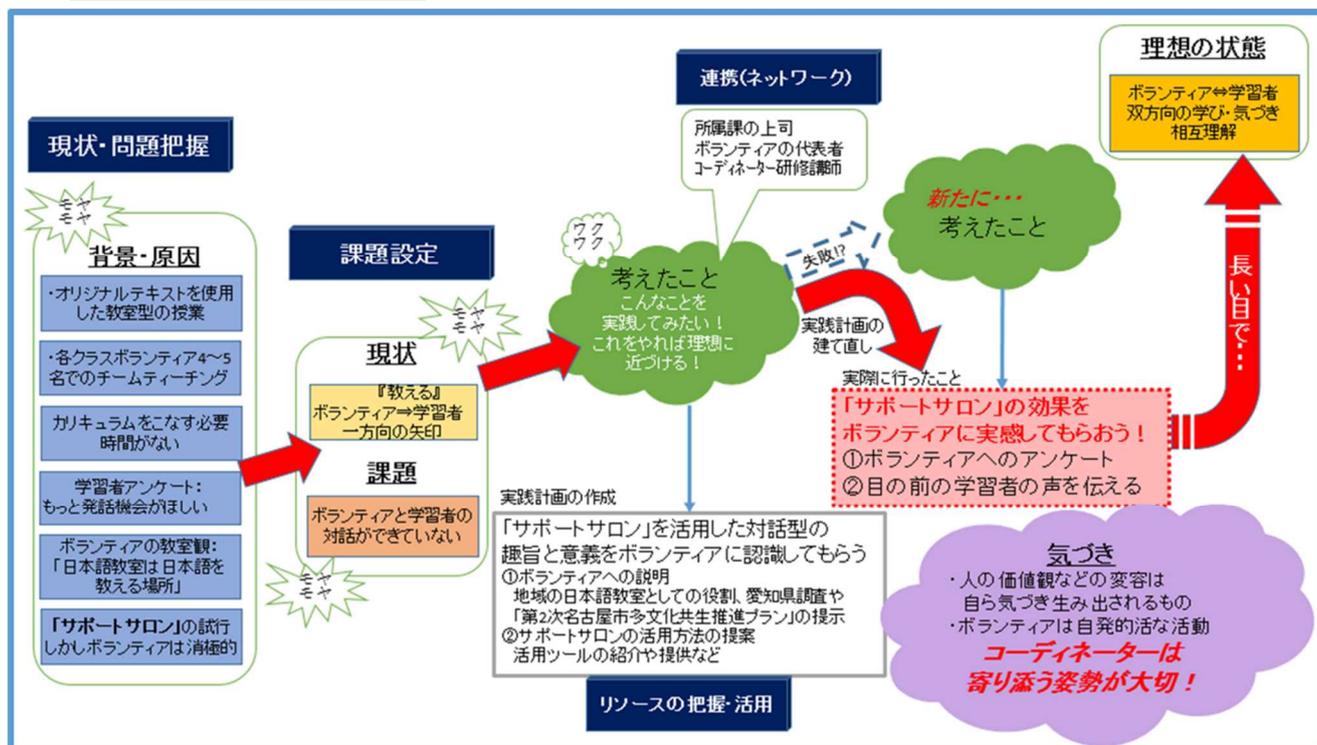


ボランティアと学習者の対話による相互理解促進にむけて～失敗からの学び～
 公益財団法人名古屋国際センター(NIC) 浅野 順子

● 実践活動の思考プロセス



● 「考えたこと (失敗)」⇒「新たに考えたこと」のきっかけ

① NIC 日本語の会の代表に相談

「せっかくサポートサロンをボランティアがやろうと思って動き出したところで、NICから『こうやってほしい』というのは、ボランティアのモチベーションを低下させるのでは？」

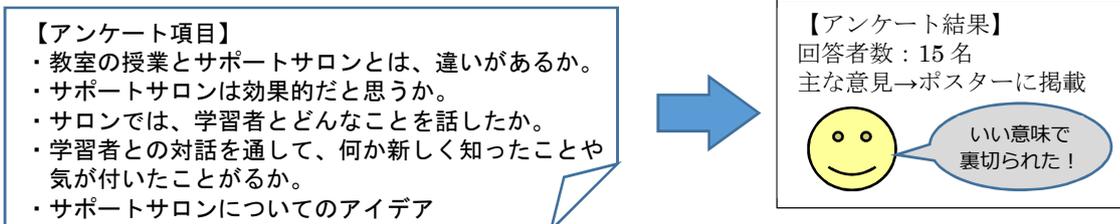
② コーディネーター研修の講師からのアドバイス

「行政などの一般的な調査結果やプランを伝えるより、実際に教室でボランティアが接している外国人の生の声を伝えた方が心に響くのでは？」



● 実際にやってみたこと

① ボランティアがサポートサロンの効果を振り返るきっかけとして…アンケートの実施



② 学習者が発話機会を求める声をボランティアに伝える…回答率UP、集計結果の全員配布

● 実践を通しての気づき

コーディネーターは、提案や依頼だけではなくボランティアに寄り添い、自発的な活動を長い目で支える役割。ボランティアとの決め細やかなコミュニケーションが必要不可欠!!